

臨床のきれはし

Sheet 18

浅田 英輔

Useless & Efficiency

○無駄キライ

私は基本的に無駄がきらいだ。効率的なのが好き。パソコンで同じ作業を繰り返すことになんの意味も感じられない（関数でもマクロでも組めばいい）し、項数の多い計算を電卓でやっている人の意味がわからない。ホームページだからかな？周りは電卓使う人が多い。エクセルで打てば間違いも見えるのに、なぜ電卓を使うのだろうか。もちろん、パッと電卓を出して計算したほうが早い場合はそうする。あくまでも効率重視である。

ちょっと前だが、毎月送られてくる数字を確認してオカネを請求するという仕事があった。項目数は多いし、計算するところも多いので、前任者からは、「2、3時間かかる」と言われていたし、実際そのくらいかかった。金額が大きいし、大事な仕事とは思いますが、しょせんはただの計算である。毎月この苦痛を味わうのは耐え難い。なので、送られてきた数字を無心で打ち込めば、全部計算結果が出るようにエクセルで計算式を入れてやったら、20分で終わるようになった。

ホームページの仕事はこんなことが山ほどある。さっさと効率化してしまいたい。ホームページに限らず、仕事の中には無駄がたくさんある。会議なんかもそうだ。話し合う必要が

ないならそもそもやらなきゃいいし、このご時世だからこそ情報伝達なら「書面開催」でもいいわけだし、オンラインでもいい。書面開催っていいよね。会場費もかからないし、時間調整もいらないし、出欠確認もしなくていい。質問があったらどうすんだ？って、オメーはメールアドレス持ってねえのかよ。キーボード打てよ。主催者も参加者も無駄だなぁって思っている会議ほど世の中に不要なものはないのではないだろうか。

意味のない無駄を減らすと、仕事がどれほどやりやすくなるのかと思う。

→なくしたい無駄

○無駄スキ

私は、無駄なことが大好きだ。通勤は国道をまっすぐ行ったほうが速いとわかっているのだが、こちゃこちゃした道を行ったり、新しい道を開拓したり、せっかく見つけたのだから通勤にも使おうとかしている。急がない帰り道ならなおさらで、わざわざ八甲田を回って帰ったこともある。いやこれは無駄ではないな！

飲み会も好きである。気を使わないメンツで、ダラダラとバカな話で盛り上がり、次の日は「何を話したか覚えてないけど、楽しか

ったー」となることもしばしばである。

「覚えてないけど財布の中身は結構減ってるな」ということもある。「楽しかった」ことは大事だが、生産性は皆無である。これも無駄ではないかも！

休みの日に何もないと、スマホをいじってマンガを見て「えっもう午前が終わる!？」となることもしょっちゅうである。それでいて昼メシを食うと今度は眠くなって昼寝をしたりする。まったく無駄な時間の使い方をしている。

→あってもよい無駄

この2つの無駄の違いは何なのだろうかと思う。

1 内発的無駄、外発的無駄

違いのひとつは、「やらせられる無駄」はイヤだということ。意味があるように思えないが仕事だからやらなければならないとか、よく知らないけどえらい先生の顔を立てるためにやらなければならないとか、そういうのはたぶん誰でも嫌なんじゃないかと思う。おそらく、それを「やれ」と指示する人も、無駄だと思っている可能性が高い。たまに「いわれたことをやるということが仕事というものだ」というおかしな考えを持っている人がいて、そういう人は、無駄だとか意味があることだとか考えないようだ。「仕事だからやる。無駄か無駄じゃないかは考えない」というタイプ。仕事楽しくないだろうなと思うけど。

話がそれだが。

無駄だと思う作業を指示されてやる、ということは「なくしたい無駄」といえるだろう。「あってもよい無駄」は、言われてやることではない。自分が選んでやることばかりだ。

もしかして、「自分は飲み会なんか行きたくないし、そこに参加する人はほぼキライだけど、仕事みたいなもんだから、行かないと都合が悪い」なんていう飲み会があるなら、それはその人にとってはやらされ感のある、なくしたい無駄に含まれるだろう。参加費もあればなおさら、時間とお金の無駄遣いでしかないだろう。

2 意味のある無駄、意味のない無駄

もうひとつは、その無駄で得られるものがあるかどうかである。「ダラダラ過ごす休日」は、何よりも休息が得られるし、「人生にはダラダラ過ごす時間が大事だ」なんて言説もある。いろいろとアクティビティに身を投じる、いわゆる「充実した休日」も楽しいが、たまにダラダラしないと疲れちゃうのである。たくさんなくてもいいけど、少しはあったほうがいい無駄は確かにある。

なくしたい無駄からは、得られるものはほぼない。「無駄な作業でも得られることがあるだろう」といったりもするが、そりゃ「理不尽に耐える我慢づよさ」なんかは得られるかもしれない。でも、それって必要？理不尽には「理不尽だ!」といえればいいし、避けられない理不尽は、能力があろうがなかろうが、耐えなければならない。無駄な仕事に対して「これは無駄だから、やり方を変えよう」と言えたほうが、会社にも社会にも貢献的なのではないだろうか。これからは働く手数は減るしかないのだから、いらぬことはやめようぜ。そこに無理やり意味を見出す必要はない。

たまに、「無駄だとわかっているけど、無駄でどうでもいいことを繰り返しているだけで給料もらえるならいいじゃないか」という人もいる。別に生産性や効率性を突き詰めな

くたっていいんだけど、「無駄なこととわかっていてそれをして過ごす人生」なんて楽しいのか？当人がいいならいいけど。私はいやだ。

Useless & Efficiency

少し話はかわるが、「無駄なわけではないが、面白いとはいえない仕事」というものもあるだろう。これは「無駄・無駄じゃない」の議論の対象ではないが、仕事を面白くするのも、「自分からやる」「意味のあるものにする」ということが関係ありそうである。最初にあげた計算を自動化した話だが、自動化した後はその仕事は楽しいものになっていた。「もうちょっと改良できるのではないかな」「そもそも数字を入力する手間をなくすことはできないか」など考えていたのである。紙で送られてくるものをスキャンしてOCRすれば、数字の入力も不要なのでは！？と考えたが、OCRの精度はそこまで高くなかった。そして私がその仕事を離れたあとで、送られてくるものがデータになった。くやしい。

それはそれとして、ここでひとつのコラムをかけるくらいのネタになっているという点も素晴らしい。「いつも手計算する無駄を省いたら、面白くない仕事がちょっと面白くなって、かかる時間も短縮された」なんて、最高だよな。無駄を省くのは、楽しいことかもしれない。

無駄とはなんだろうか。「やらされ感のある時間」といえるだろうか。やらされてるときは楽しくない。楽しめていない時間は「好きな時間」ではない。楽しい時間を増やしたい。たぶん、そのほうがいい人生なんじゃないかな。

効率を求めすぎること、必ずしもいいことではないかもしれない。もしそれが楽しさにつながりそうなら、ちょっと効率を求めてみるのもいいかもしれない。

最近とても好きなマンガの一つに、ヤマシタトモコさんの「違国日記」がある。登場人物のマキオちゃんとジュノさんは、ともに作家である。作家にも当然苦悩があり、「働きたくねえな！」と言い合う場面がある。「働きたくない」も本心なんだろうけど、お互い気合入れて仕事していると理解している同志だからこそ、思いが含まれた「働きたくねえな！」なんだよなあと思った。「働きたくねえけど、お互い、気合入れてやるか！」なんだよなあ。愚痴をいうにもかっこよさは大事だ。かっこいい同志である。



違国日記©ヤマシタトモコ/祥伝社フィールコミックス